

現在ではこれ以上の学生を受け入れることもまた難しい。実習教育は概論履修者の3分の2を予定しているが、これ以上の学生が殺到するとまた困ったことになる。最後に、情報処理センターの協力を感謝を申し上げ、また全学の関係者にご理解とご協力をお願いして締めくくりとしたい。

長崎・テレトピア構想に考える

熱帯医学研究所環境生理

小坂 光男

長崎大学の付属図書館および医学分館運営委員と情報処理センター運営委員を数年に亘って併任して、意外に感じている事は、従来の図書館情報システムと新たなコンピュータ情報処理システムの相互乗り入れに、多くの大学人が戸惑い、現代の高度情報化社会の急進展に追従できず悩んでいる姿である。大学のこんな体質を尻目に、つい先日新聞は長崎にもテレトピア構想が実現する運びとなった事を報じている。以下その一部を抜粋して紹介すると、郵政省が昭和58年に提唱したこの構想はテレコミュニケーション（電気通信）とユートピア（理想郷）を組み合わせたもので未来型のコミュニケーションモデル都市づくりを意味するとの事。高度情報化社会の基盤を構築するには地域高度情報通信システムが核となり昭和70年にはNTTによってこのシステムは完成されるという。長崎県は離島の数でも日本有数。長崎、大村、福江の三つの市、五島、壱岐、対馬の22町を対象に本土と離島を結ぶ情報システムの導入をこのテレトピア構想に乗せることが認められ、今度のモデル都市の指定を受け、10月28日に発足したことは喜ばしい。ところで、テレトピアが一体何を目指しているのか？ 第一は上述の対照地域の各学校にパソコンを導入し、コンピュータに強い人材育成のほか、コンピュータ活用で教育の充実を図る「地方教育情報システム」。第二は図書館に対する要望が多様化、専門化しているため、県中央の図書館にコンピュータを導入、図書館情報システムを確立し、対象地域の図書館サービスの向上を図る…とある。さて、長崎大学の情報システムの現状はどうか？ 現在は、図書館情報以外に大学の教官が専門知識を平易に一般市民に講ずる開放講座が盛んで、NHK教育講座に似て、長崎大学でも数年前から20以上の公開講座が開催され市民から好評を受けているのは事実である。さらに情報処理センターの先生や職員の皆さんの努力によって、全国7ブロックを拠点とする大型コンピュータの相互利用によって学術図書館情報の収集は随分と様変わりしてきている。

長崎大学が総合大学化の道を歩んだ過程での、各学部の生い立ちの違いや、本部、坂本、片

淵の三地区の地理的条件から夫々の教育図書館や研究図書館、さらにその分室に散在する学術図書情報を一点に集約する事は、図書館の事務機構の一本化以上に難問である事は百も承知である。したがって、今、長崎大学の情報システム改良に要望されるものは何か？ 学内の学術図書の開放・整理、他大学との文献交換の迅速性をはかりつつ、市井に先行された今度のテレトピア構想を見て、長崎大学の情報処理センター機能を極度に高める事が急務と考えている。